

B-42 アクリル酸(メタクリル酸)テトラヒドロフルフルリルによる防しめ加工
四国女子大家政 四十宮龍彦 野田志子

目的 綿布、レーヨン布にアクリル酸(メタクリル酸)テトラヒドロフルフルリルをグラフト重合及び共重合を行い、防しめ効果を検査した。

方法 (a) 試布は市販の着綿ブロード、レーヨン布を使用、(b) アクリル酸(メタクリル酸)テトラヒドロフルフルリルはアクリル酸メチル(メタクリル酸メチル)とテトラヒドロフルフルリルアルコールのエステル交換反応により掌法に従って合成使用した。アクリロニトリルは試薬一級を使用した。試験加工布は所定の条件下で作成し種々の試験に供した。防しめ度、引張り強伸度、引裂強度、剛軟度等の測定は掌法による行った。

結果 (1) グラフト初率はアクリル酸テトラヒドロフルフルリル及びアクリロニトリルグラフト共重合したものが、メタクリル酸テトラヒドロフルフルリル及びアクリロニトリルグラフト共重合したものより大であった。
(2) 防しめ効果はアクリル酸テトラヒドロフルフルリル及びアクリロニトリルグラフト共重合したものが、メタクリル酸テトラヒドロフルフルリル及びアクリロニトリルグラフト共重合したものより効果があった。
(3) 防しめ効果は相对湿度時間の長いもの、相对湿度の高いもの程効果が大きい。又加工綿布では強伸度共低下の傾向があり、加工レーヨン布では伸度共低下傾向があった。更に引裂強度は綿布、レーヨン布共低下の傾向がみられた。